

2023 年度 活動報告



社会福祉法人 慈愛会

母子支援機関 Link

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

4 月

- 妊娠相談対応
 - ・個人情報保護のため、“つながる相談”システム導入
 - ・LINE 相談 12 件、電話相談 5 件 計 17 件
 - ・妊娠後期の未受診妊婦からの相談→健康課への情報共有・産婦人科の予約
→糸島市へ引き継ぐ
- 居宅支援
 - ・筑前町より打診あり、4 月 13 日より居宅支援開始
 - 関係機関との連絡、調整
 - 同行支援（市町村、産婦人科、母子生活支援施設の見学、育児用品の購入）
 - 家事支援
 - 食事提供
 - ・小郡市在住の妊婦より相談あり→4 月 12 日より在宅支援開始
 - 同行支援（産婦人科・精神科受診、生活用品の購入）
 - 家庭訪問
 - 関係機関との連絡・調整
- 市町村、児童相談所を交えたケース会議の実施
- 周知活動
 - Instagram の更新
 - 法人内育児サロンへの参加
- コンサルテーション（妊娠葛藤相談対応について）



つながる相談システムについての Instagram 投稿

5月

- 妊娠相談対応
 - ・ LINE 相談 16 件、電話相談 8 件 計 24 件
 - ・ 相談電話番号をフリーダイヤルへ変更(0120-245-738)
- 居宅支援
 - ・ 居宅支援継続(4/19~)5 月出産
 - 〔 関係機関との連絡、調整
 - 同行支援 (市町村、産婦人科、育児用品の購入)
 - 家事支援(家計整理、住まい探し)
 - 食事提供
 - 母体ケア
 - 育児支援
 - ・ 在宅支援継続 (4/12~)
 - 〔 同行支援 (産婦人科・精神科受診、生活用品の購入)
 - 家庭訪問
 - 〔 関係機関との連絡・調整
- 市町村、児童相談所を交えたケース会議の実施
- 周知活動
 - 〔 Instagram の更新
 - HP の更新
 - 〔 久留米市産婦人科病院来園、活動紹介
- コンサルテーション (妊娠葛藤相談対応について)



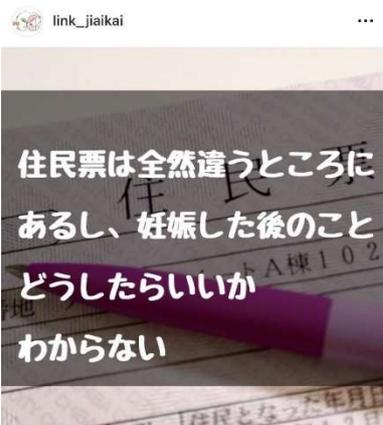
電話番号変更に伴い、チラシ・ミニカードの番号も変更

6月

- 妊娠相談対応
 - ・ LINE 相談 6 件、電話相談 3 件、メール相談 2 件 計 11 件
- 居宅支援
 - ・ 居宅支援継続(4/19～)
 - 〔 関係機関との連絡、調整
 - 同行支援（市町村、産婦人科、育児用品の購入）
 - 食事提供
 - 家事支援
 - 母体ケア
 - 〕 育児支援
 - ・ 在宅支援継続（4/12～）6 月出産→アフターケア(家庭訪問実施)
- 市町村、児童相談所を交えたケース会議の実施
- 周知活動
 - 〔 Instagram の更新
 - 〔 筑後地域母子保健会議への参加
- コンサルテーション（妊娠葛藤相談対応について）

7月

- 妊娠相談対応
 - ・ LINE 相談 7 件、電話相談 6 件、メール相談 2 件 計 15 件
 - ・ 未受診若年妊婦からの相談→在宅支援開始
 - 面談
 - 受診同行
 - 同行支援(市役所)
 - 関係機関との連絡・調整
 - ・ 予期せぬ妊娠をした妊婦からの相談→福津市へつなぐ
- 居宅支援
 - ・ 居宅支援継続(4/19～)
 - 関係機関との連絡、調整
 - 同行支援 (市町村、産婦人科、育児用品の購入、弁護士相談)
 - 家事支援
 - 食事提供
 - 母体ケア
 - 育児支援
- 市町村、児童相談所を交えたケース会議の実施
- 周知活動
 - Instagram の更新
 - 筑後地域母子保健会議への参加



Instagram 投稿例(7月)

8月

- 妊娠相談対応
 - ・ LINE 相談 15 件、電話相談 7 件 計 22 件
 - ・ 育児に悩む女性から養育についての相談→福岡市に繋ぐ
- 居宅支援
 - ・ 居宅支援継続(4/19～) →8月退所
 - 〔 関係機関との連絡、調整
 - 同行支援（市町村、育児用品の購入、弁護士相談）
 - 家事支援
 - 食事提供
 - 母体ケア
 - 育児支援
 - ・ 八女市から居宅支援の打診→居宅支援開始、8月退所
 - 〔 関係機関との連絡、調整
 - 生活支援
 - 家事支援
 - 食事提供
- 市町村、児童相談所を交えたケース会議の実施
- 周知活動
 - 〔 Instagram の更新
 - 大刀洗町への事業説明の実施
 - 飯塚市への事業説明実施
- 虐待防止研究会研修参加(8/18)
- 「妊産婦のメンタルヘルス研修」参加(8/23)

9月

- 妊娠相談対応
 - ・ LINE 相談 15 件、電話相談 8 件、メール相談 1 件 計 24 件
ひとり親世帯の育児相談→福岡市へ繋ぐ
- 周知活動
 - Instagram の更新
 - HP の更新
 - 小郡市、久留米市内産婦人科への事業説明の実施
 - 松山乳児院来園
- 妊娠葛藤相談援者養成研修 (9/18)

10月

- 妊娠相談対応
 - ・ LINE 相談 10 件、電話相談 7 件、メール相談 1 件 計 18 件
予期せぬ妊婦からの住まいの相談→福岡市へつなぐ
- 婦人保護事業トピックス研修会参加 (10/6)
- ノベルティ作成



ノベルティ (ボールペン、付箋)

11 月

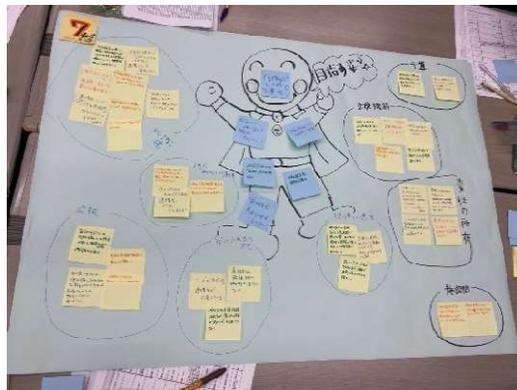
- 妊娠相談対応
 - ・ LINE 相談 11 件、電話相談 8 件、メール相談 1 件 対面相談 5 件 計 25 件
 - 〔久留米市内病院からの相談 1 件〕
- Link 主催にて研修会開催 特別養子縁組について (11/1)
 - (市町村他 19 団体 35 名参加)
- 周知活動
 - ・ 大刀洗町ドリームまつりブース出展 (11/11~11/12)
 - 〔チラシ・ミニカード・ノベルティ 300 部配布〕
 - 〔相談会実施〕
- 福岡県女性相談所からの見学 (11/1)



ドリームまつり (パネル展、広報)

12 月

- 妊娠相談対応
 - ・ LINE 相談 4 件、電話相談 10 件 計 14 件
〔大刀洗町からの相談 2 件〕
- 周知活動
 - ・ Instagram 更新
- にんしん SOS 情報交換会参加 (12/1) チラシ・ミニカード配布
- 筑紫地域における子育て家庭への支援体制の充実を図るための関係者会議への参加 (12/2)



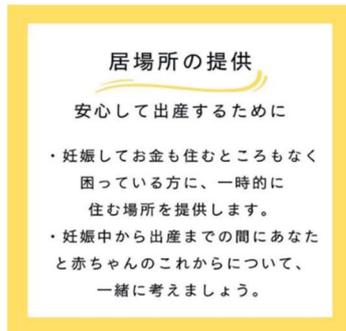
にんしん SOS 情報交換会

1 月

- 妊娠相談対応
 - ・ LINE 相談 11 件、電話相談 9 件 計 20 件
- 周知活動
 - ・ NHK zoom 取材 (1/30)
 - ・ Instagram 更新

2月

- 妊娠相談対応
 - ・ LINE 相談 7 件、電話相談 9 件、メール相談 1 件 計 17 件
- 〔 警察からの情報提供依頼 1 件
福岡県からの居宅打診 1 件
- 周知活動
 - ・ Instagram 更新
- 母と子のメンタルヘルスケア研修会 (2/18)

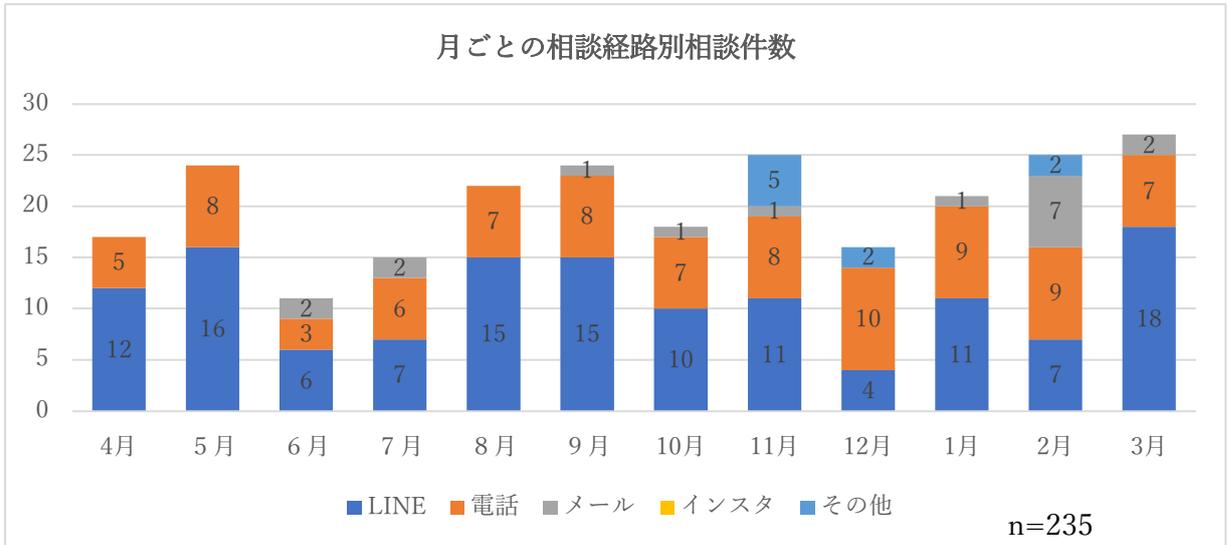


Instagram 投稿例 (2月)

3月

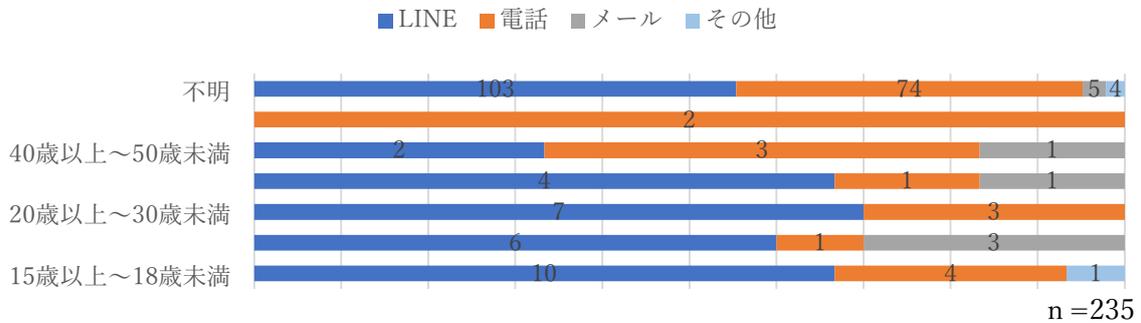
- 妊娠相談対応
 - ・ LINE 相談 18 件、電話相談 8 件、メール相談 2 件 計 28 件
- 周知活動
 - ・ Instagram 更新
- 女性相談所一時保護委託に関する指定施設会議への参加 (3/12)
- 子ども・子育て全国フォーラム 2023・社会福祉法人大念仏寺社会福祉事業団 ポ・ドーム大念仏ダイヤモンドルーム・大念仏乳児院等視察 (3/14-3/15)

相談実績



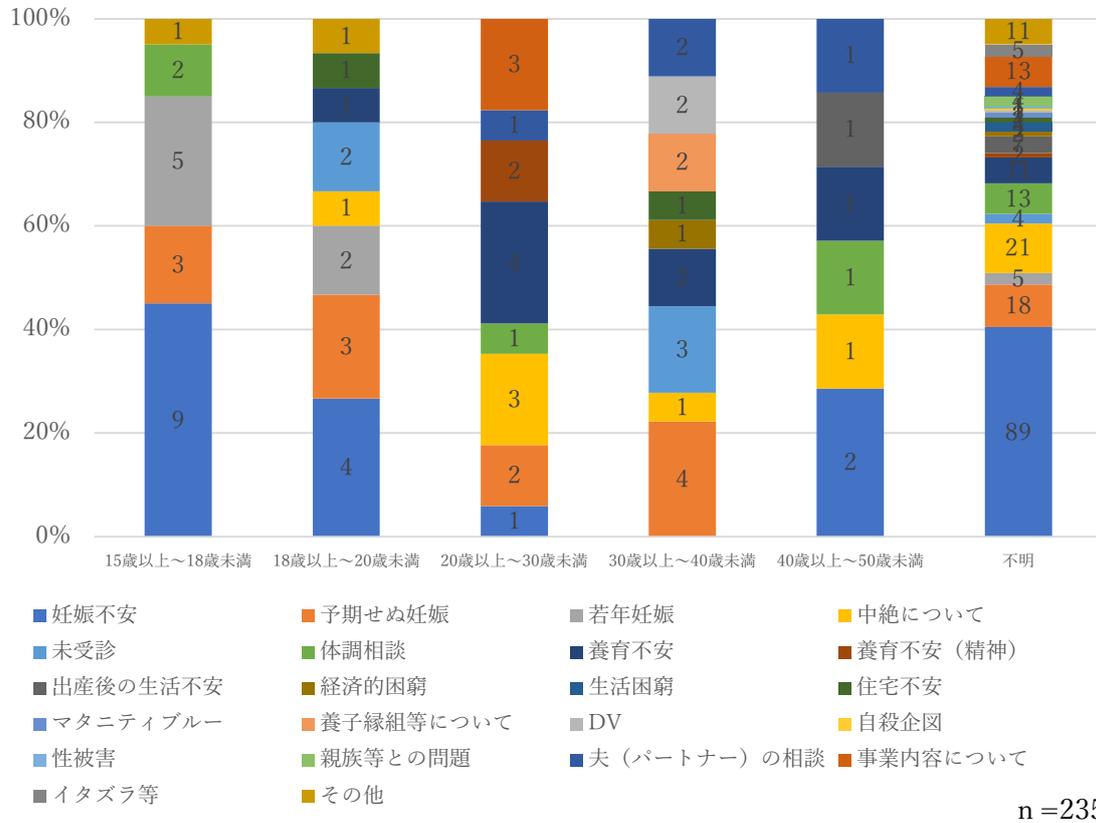
- ・ 2023 年 4 月～2024 年 3 月までの間で、延べ 235 件の相談あり。11 月は地域のまつりに参加し、子育て相談を実施したことでその他(対面形式)の相談が増えている。
- ・ 前年度より相談件数が減少している要因は、「つながる相談」システムへの変更や、商業施設におけるミニカード設置が進まなかったことが影響していると考えられる。

年代別の相談経路

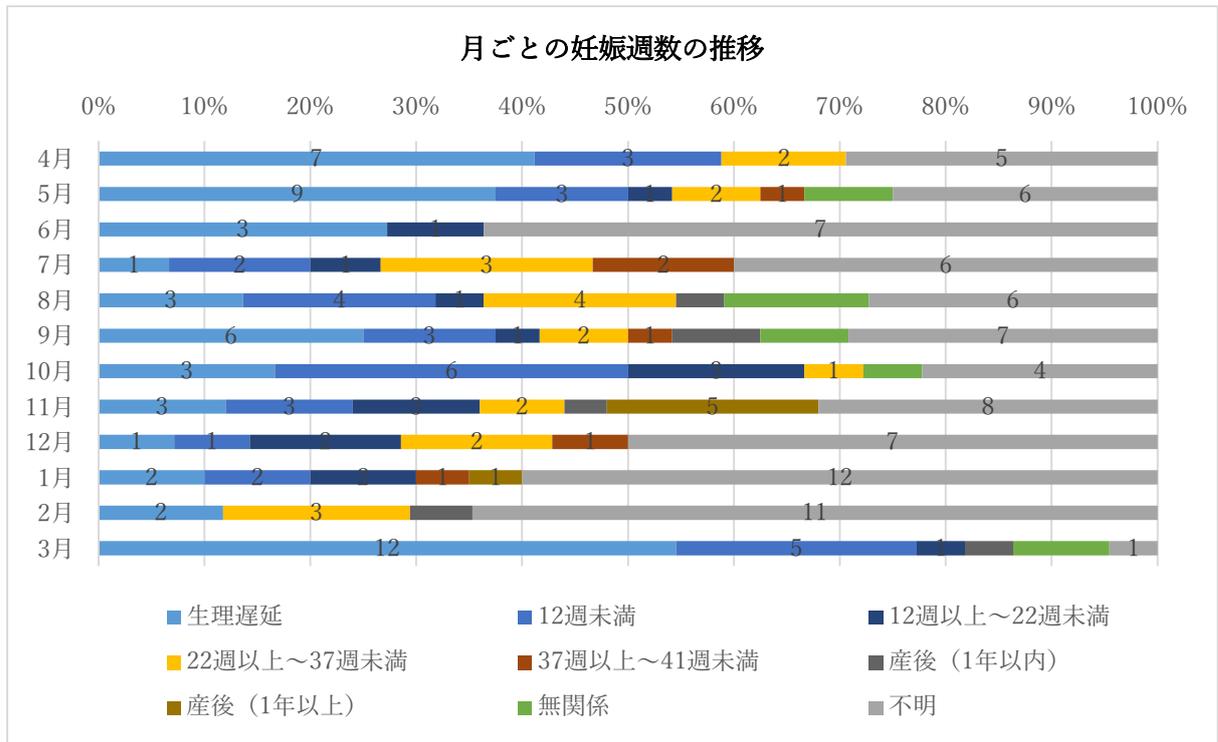


- ・ 若年層ほど、LINE 相談件数が多い傾向は、窓口開設当初から変わらないため、SNS を用いた相談対応は有効であると考えられる。

年代別相談内容割合



- ・若年層ほど妊娠不安の相談が多く、20代～30代になると、養育への不安など、家庭に関する相談内容も多い。また、予期せぬ妊娠の相談は若年層から30代と幅広い層からきている。
- ・今年度よりフリーダイヤルに変更してからは、「イタズラ等」や、妊娠に無関係な相談は減少している。



- ・生理遅延または妊娠 12 週未満での相談が毎月 3～4 割を占めていた。また、中絶が選択できない妊娠 22 週以降の女性からの相談はどの月も来ている。
- ・11 月・12 月は子育て相談を実施したことで産後 1 年以上経った方からの養育についての相談が増加している。

総評

- ・目標件数 350 件には到達しなかったが、行政や産院などの関係機関からの「支援の相談」件数や、本人からの相談を Link より適切な関係機関へ「つなぐ支援」を行った事例は年々増えており、連携体制も整いつつ、支援の質も充実してきている。
- ・昨年から県委託となったことと、さらに今年度より女性相談所一時保護委託先となったことで、関係機関との会議や研修会への参加機会も増え、女性相談所との事業連携を進めることができた。
- ・乳児院の機能を活かすことで、出産時もきょうだいも一緒にむかえたり、親子が地域で自立した後もアフターケアとして乳児院の支援メニュー（子育てサロンやショートステイ）を利用するなどの家族に応じた支援ができるようになった。
- ・産院や教育機関とタイアップしていくための連携体制にはまだ課題が残っているため、今後も事業周知を行っていきながら顔つなぎを図っていく。